

共同研究奨励助成グループ

『戦後、とくに GHQ 占領期における在日華僑、在日朝鮮人の生活空間を明らかにする—横浜市・神奈川県内の動きを中心に』09年～11年

外国語学部 大里浩秋

○申請時の研究目的

- (1) 戦後直後から現在に至る日本華僑、とくに横浜在住華僑に関する資料の発掘・収集に努め、従来収集した資料と今回収集する資料を合わせて分析することで、彼らがたどった道のりを整理するとともに、その特徴を明らかにしたい。
- (2) 同時に、戦後直後から1950年代初、GHQ占領期の在日朝鮮人が発行していた新聞や雑誌を分析することで、当時の彼らの生活空間が如何なるものであったかを神奈川県内の動きを中心に明らかにしたい。
- (3) 以上のことは、従来の研究では資料の制約もあってほぼ手つかずの状況にあったが、最近本学図書館が購入したプランゲ文庫を利用することによって、また在日華僑についてはさらに、台湾と中国にある資料を利用することで研究を進展させる目途が立った。この機を逃さずに戦後早い時期の在日華僑、在日朝鮮人が置かれた状況を明らかにし、そうすることで、彼らが現在置かれている状況を比較考察する基礎を固める。

○参加メンバーは、最初の登録では大里浩秋（代表）、貴志俊彦、孫安石、村井寛志、東郷佳朗、尹健次、小林聡明の7名だったが、まもなく小熊誠、泉水英計の参加を得て、9名となった。

○09年度開いた研究会

1. 6月22日第1回

- ・初顔合わせして、各自の関心、これから取り組むことを出し合う。
- ・在日華僑、在日朝鮮人の他、沖縄出身者の戦後についても調べることを確認した。

- ・グループの略称を「プランゲ文庫と東アジア研究会」とすることを確認した。
2. 10月19日第2回
 - ・小林聡明さん報告「在日朝鮮人雑誌に見る検閲の実態—『民主朝鮮』を中心に」
 - ・泉水英計さん報告「極東の『フロンティア』—米国人歴史家が語る冷戦期の琉球と台湾」
 3. 1月27日第3回
 - ・陳来幸さん（兵庫県立大学教授）報告「戦後華僑に関する研究の現状」